



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団 業務部
環境活動支援チーム
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

地球人みんなのエコロジーフェスティバル!

エコメッセ2010

9/5日 入場無料 inちば
10:00~17:00

会場/幕張メッセ 国際会議場 主催/エコメッセ2010inちば実行委員会

エコを楽しめるイベントがいっぱい!
主役はあなたです。

環境問題の解決には、みんなが少しずつ知恵を出し合わなければ進みません。あなたもそのヒントを見つけに、そして、参加する喜びをエコメッセの「風」で感じませんか?



エコメッセ2010inちばテーマ

エコメッセで くらしを変えよう

生物多様性と地球温暖化

「エコメッセ2010inちば」は、「ちば環境再生基金平成22年度環境再生にかかわる普及啓発等事業助成金」を受けています。

<http://www.ecomesse.com>

千葉の里山・ 田舎暮らしエコバザール

江戸時代のエコ社会を現在に再現!
里山カフェで美味しく食べエコ体験も!

エコクイズラリー

全問制覇で豪華景品をGET!?
クイズラリーでエコを学ぼう!
「高校生のガイド付きラリー」もあります

「環境漫画家」つやまあきひこさんの にがおえ屋さん

みんなの笑顔がその場で似顔絵になる♪

CSRコーナー

企業の社会貢献とは、エコ活動とは

生物多様性と 地球温暖化ゾーン

生物多様性と地球温暖化の今がわかるよ!

学生コーナー

学生さんのエコ活動さまでま

エコカー展示・試乗会

最新のエコカーが勢ぞろい!

国際CANカップ新会(CCS)公開

缶つぶし大会
誰でも世界記録に挑戦だ!

インターネット中継

エコメッセを動画配信します!



エコメッセで使う電力は
太陽光で作られる
グリーン電力です!
グリーン電力は環境にやさしいエネルギーです。

今年も9月5日に幕張メッセ国際会議場で「エコメッセ2010inちば」が開催されます。
ご参加下さい! エコメッセ2010inちば実行委員長 桑波田 和子

2010年9月5日(日) 10:00~17:00 幕張メッセ国際会議場内外を会場にして、環境パートナーシップちばブースでは、「花見川の生きものたち」がお待ちしております。ELCOの会ブースでは、環境学習の相談や交流の場としてご参加ください。

(広報部)

第43回 環境パートナーシップ エコサロンの報告

テーマ： ～森林と河川のいやし効果～について

話題提供者：菅谷 茂氏（千葉大学大学院医学研究院環境影響生化学助教）

日時：平成22年6月23日（水） 18：30～20：00

会場：千葉市民活動センター1F 大会議室 参加者：約20名

森林や川に行くと心や体が癒されることは、だれもが持つ感覚です。

森林についての癒し効果については古くから研究されています。しかし、河川については、福祉、医療、教育分野での研究（*1）、実用面ではユニバーサルデザインなどが行われ、ホットなテーマになりつつありますが、医学を応用した癒し効果の定量化の研究は堵についたばかりです。

菅谷氏からは、①ストレスとは？ ②ストレスが人体に与える影響 ③森林浴でストレス解消！ ④河川のいやし効果 の4項目を主にお聞きしました。

現在社会は、ストレスが多く、一方、市民は健康に強い関心を持ち、健康という名がつくイベントには多くの参加者が集まるそうです。ストレス軽減策に向け、まずストレス度（又は癒し効果）を測定することが必要ですが、医療分野では近年の「整理マーカー分子」の研究の成果を受け、中枢神経系(脳波)、自律神経系(血圧、脈拍)、内分泌系(唾液マーカー、血液マーカー)、免疫系(唾液チェック)などを指標に用いたストレス度の定量化法の開発が進められています。

一方、菅谷氏は、多摩川など実際のフィールドで、河川での癒し効果の研究にも取り組まれています。癒し効果の科学的検証はまだ開拓期で、分野を超えた連携活動が必要であると結ばれました。

今年の10月には、「川と沼で素敵な！体験を提案する全国大会inちば」（*2）が、10月 8日～10日まで千葉市内、印旛沼、利根川(香取市)の会場で開催されます。このシンポジウムでも、菅谷 茂氏の研究が紹介される予定です。



（エコサロン講演会場内）

*1 「川で実践する福祉・医療・教育」石川 治
江・大野重男・小松寛治・吉川勝秀 編 川
での福祉・医療と教育研究会 著
2004.10.10 学芸出版社発行

*2 「川と沼で素敵な！体験を提案する全国大会inちば」は、印旛沼の再生事業の一環で行われ、主催者は、市民・行政(県河川環境課等)・大学・企業等で構成された実行委員会です。内容は、基調講演、分科会開催(①水辺での福祉・医療、②水辺での教育、③水辺からのまちづくり、④水の回廊・舟運、カヌー等による水辺体験活動等から構成され、全国の先進事例紹介やディスカッションが行われます。
開催日：10月8日（水）～10日（金）
会場：プラザ菜の花（10月9日[木]）

（文責 広報部）



第6回ちばし手づくり環境博覧会の報告

平成22年6月5日(土)から6日にかけて、標記の博覧会が千葉市きぼーる1階 アトリウムにおいて行われました。なお、続いて7日~11日までの間はボード展示のみが行われました。

この博覧会は、環境をテーマに活動している民間団体や企業、行政や学生グループなど、日ごろの活動の成果を発表するとともに、お互いに交流を図ることを目的の一つにしています。出展した33団体は、温暖化対策、体験や環境保全、廃棄物を減らすための活動やリサイクル、環境学習といったそれぞれの活動ごとに4つのグループに分けて構成されました。また、今年は、きぼーるにある、千葉市子ども交流館と、「挑戦!3R巨大エコすごろく」「東京ガス環境講座ペレットペンダントづくり」の2つのイベントを併催しました。

今年のテーマは、「みんなで体感!エコラリー」で、参加者が体験できるブースや会場の中央に配置された体験型環境学習コーナーで、親子が熱心にネイチャークラフト等を学び遊ぶ姿が多く見られました。



(環境パートナーシップちばブース)

2日間の来場者は、1,100名で、低学年の親子が多く見られました。

当環境パートナーシップちばは、「花見川にはどんな生き物がいるのかな?」と題し、来場者に生き物の絵を選んで花見川の絵に張っていただきました。親子連れが多く立ち寄っていただき、親子で対話しながら取り組んでいる姿は印象的でした。

(文責 広報部)

エコフェアいちはら 2010開催

テーマ：次世代へつなごう! 人にも生き物にもやさしい街 いちはら

日時：6月5日(土) 10:00~15:00

会場：市原市市民会館・市役所駐車場

さわやかなお天気に恵まれた、6月5日(土)、市原市市民会館と市役所駐車場にて、20「エコフェアいちはら2010」が開催されました。今年のテーマは、10月に開催される生物多様性国際締結会議(COP10)の開催も意識したものになりました。主な催しとして、・出店団体の展示・地産地消コーナー・アニメ「旭山動物園物語」・見学バスツアー(千葉県環境研究センター)・環境保全推進絵手紙の展示・絵手紙展表彰式・フリーマーケット等でした。

県生物多様性センターからお借りした、生物多様性についてのパネルが屋内会場の入り口に掲示され、会場に入ってみました。会場内は、どのブースにもぎやかでしたが、中でも、有秋東小学校ブースでは、立野川の生き物を丹念に調べ、DVD等も活用し元気に発表する児童の姿に多くの人が集まっていました。また、体験型展示ブースでは、竹でのおもちゃ作りやスライム作りなど、親子連れでにぎやかでした。

屋外では、次世代自動車体験、省エネ、バスツアー等でした。なかでも、スタンプラリーの景品に養



老のめぐみのお米が配布され、大人気でした。

当団体は、このフェアに出展し、また実行委員として、企画の担当をしています。実行委員会は、会長が(社)市原青年会議所の方で市民団体、(社)千葉県環境保全協議会市原部会、市原市環境管理課など約10名の実行委員で企画運営しています。

市原の地域性もあり企業の協力も大きいですが、市民団体の参加も年々増えてきています。

(文責：広報部)

第2回市民環境講座 「新しいエコライフと明日のまちの」

平成22年6月12日、江戸川大学サテライトセンターで第2回市民環境講座が開催されました。

今回の講座は「この美しい地球を引き継いでいくためには、もっと地球を知ろう」と南極観測隊に女性記者として初めて同行された朝日新聞社の中山由美記者を迎え、越冬体験の特別講演、二つ目は明日のまちづくりに向けた研究発表、三つ目は「ストップ温暖化！ながれやま20→20（ニコニコ）プランの取り組み発表がされました。

中山記者の特別講演は1年4か月にわたり越冬隊員に同行しマイナス60℃の極寒の暮らしや片道1000kmあるドームふじ観測所まで雪上車で1か月にかけて移動し、観測する体験など多くの写真やビデオ映像から数々の苦楽の体験話が紹介されました。

第51次南極観測隊に再度同行して、今春帰国され多忙のなかの出演でした。細身の一女性から想像もできない突進力、忍耐力そして研究熱心さ、反面やさしさのある中山記者の話に参加者は驚いた様子で聴き入っていました。

参加者からは平素見ることができない映像が見られ、大変良かった。体験談は興味深かったなど多くの声が寄せられました。中山記者は生きものたちが幸せに暮らせる、美しい地球を残せるように、今、私たちができることは南極の地球環境

の変化に耳をすませることだと結ばれました。

続いて江戸川大学の伊藤教授から「流山の熱環境調査と低炭素まちづくり」について研究発表がされました。伊藤教授は流山市が進める「グリーンチェン戦略」の効果測定のための温度定点観測の2006年度夏から取り組み、都市化に伴うヒートアイランド化の対応について研究されています。住民主体でライフスタイルが夏季での家庭の電力消費量と外気温との関係に電力消費性向事例式を示されました。この研究によって、低炭素まちづくりの視点の学術成果が期待されます。

最後は今年度から実施されている流山市地球温暖化対策実行計画「ストップ温暖化！2020年20%CO2削減」の取り組みについて宇仁菅部長から説明がありました。CO2排出量を2020年20%削減を目標とする語呂合わせで、市民や事業者の皆さんの実践活動を通じて楽しみながら、家計や経費軽減が最終的にみんなが「にこにこ」になるようにと分かりやすく説明されました。

なお、家庭でのCO2排出量を自動で計算できる環境家計簿の紹介や2010年夏省エネコンテストの話がありました。大変有意義な市民環境講座であったと思う一面、もっと大勢の人に聴いてもらう工夫ができれば活動の輪が広がる思いでした。

（流山市 馬渡 敏隆）

浦安市環境フェア報告

2010年6月19日梅雨の蒸し暑い日でしたが、JR新浦安駅駅前広場で開催した「浦安市環境フェア」には、市民・企業・行政で27団体と約6000名の市民の参加がありました。



「いつも隣にある ECO!!～気づきから行動へ 行動は継続へ」をテーマに、新浦安駅前広場での展示や体験を中心に、広場の奥にあるショッパーズプラザ1階では特設ステージでパフォーマンスを、4階室内会場でも展示・体験があり、市民スタンプラリーや三番瀬の生き物クイズなど、楽しみながら環境について学べるコーナーがたくさんありました。写真はその一つ「太陽光発電でミニカーレース」を実施している「温暖化防止うらやす」です。

また、希望する市民にはごみ袋とごみ拾い用トンブが貸し出され、ごみを拾う体験からごみをまちに捨てない気持ちを育むという運動を行っていたのも特長でした。終了するころには、木の葉まで拾われてゴミのないきれいな駅前会場となりました。

（浦安市 横山 清美）

エコについて興味を持つきっかけに ～ふなばし環境フェア～

「ふなばし環境フェア」は、2010年6月5日、船橋市中央公民館において46団体参加の実行委員会で開催され、好天にも恵まれて来場者は終了時間まで客足が途切れることなく過去最高の6200人でした。アンケートの回収もこれまでになく多く、年齢層も若干下がり、学校の参加が来場者の年齢を少し若返らせたのではないかと思います。



各ブースに立ち寄ってもらうための「スタンプラリー」、「花のプレゼント」も好評でした。

屋外での「丸太きりコーナー」「三番瀬の生き物にタッチ」、館内での「星のきらめく里山でネイチャーゲーム」「子どもイベント広場」の工作、専門学校学生の「リサイクルドレス」、ストップ地球温暖化コーナーの「体験学習」、環境への思いを込めたメッセージの短冊を飾った笹飾りが今年もロビーを彩りました。「環パちば・ふなばし」は「船橋市地球温暖化対策地域協議会」のブースで、啓発を兼ねた「我が家のエコ度チェック」を行いました。

「いろいろな人に教えてもらってうれしかった」「環境について学べるし、子どもは工作できて喜んでくれるし、良いイベントだと思う」「いろいろ考えるいい機会だった。これから頑張ります」「一人ひとりの小さな努力が大切。みんなが実行すれば必ず成果は上がる」、こんな声に励まされ、来年の出し物に思いをはせています。

(船橋市 大西 優子)

香取市環境フォーラム2010 報告

実行委員 城之内健一

平成22年7月4日(日)「香取市環境フォーラム2010」が香取中央公民館で開催されました。テーマの「川は生きている」サブテーマ「川との付き合い方をみんなで考える」に沿った環境パネル展も同時開催されました。実行委員として参加した建設業協会も展示に参加することになり、3社が説明要員も配置して市民との交流を行いました。写真は交流の様子です。

内容は、「利根川の水神信仰について」では、水はいつでも(洪水濁水)上流から流れ来る「一つの水」「物言わぬ水」を水神様が優しく見守ってくれていることを展示しました。「多自然型護岸の施工後の調査」では、施工した業者が、施工後、どのような変化があったかを、うなぎ漁の様子から考察をして、漁が増えていることを展示。

「堤防除草と植生の関係」では、堤防の除草の施工工法(草刈り回数など)によって植生が変わり、その植生によって堤防がダメージを与えていることの展示をしました。



テーマの「川は生きている」の実感が少なくなった市民もおり、展示・説明で理解してくれる市民に感謝しました。参加した3社では、このような会場での説明も良い経験となり、より良い環境作りのハード(施工)から、ソフト面での環境作りも大切であることを実感させられました。

あらためて生物多様性とは！

千葉県立中央博物館・生物多様性センター 中村俊彦

いよいよ生物多様性 COP10 もあと3ヶ月たらずである。先日、国連大学で、カウントダウン100日前シンポジウムに参加し、千葉県での生物多様性と里山の取組についての報告をおこなった。最近、めっきり生物多様性の報道も増え、新聞、雑誌またテレビ等で生物多様性についていろいろと情報発信されてきた。しかし、報道が多くなれば多くなるほど、私にとっては違和感を感じるが増えている。

●「生きもの」と「生物多様性」

先日ある新聞で「生きもの会議 暗雲」という大きな見出しの記事を目にした。生物多様性条約締結国会議を日本は「国連地球生きもの会議」と称しており、その準備会合での生物多様性の利益の公正・衡平にかかわる内容であり、先進国と途上国との調整が難航しているとの記事であった。

「生物多様性」が難しいので「生きもの」でわかりやすくしたとのことだが、日本語の「生きもの」は「生物多様性」が意味するものとは、あまりにもかけ離れている。遺伝子レベルから個体、種、そして群集・群落のレベルに至る、さまざまな生物・生命・いのちの変異・変化の総体が生物多様性である。確かに「生きもの」は誰もがイメージすることができる。しかし、生きものは、普通、人間以外の動植物を意味する。「生きもの会議」として生物多様性の資源の利益配分について説明する記事には大きな違和感を感じた。私は生物多様性の言葉から逃げたいいけないと思う。

●多様性の反対は少数精鋭

「生物多様性が豊か」といった場合、人はどのような状態をイメージするか。「将来の食糧不足に備え、生物多様性の保全が重要で、その具体策として、遺伝子組み換え技術によって食糧増産をはからねばならない」。なにげなく理解したという人も多いかと思うが、この脈絡には大きな落とし穴がある。

食糧とは、水とミネラル等を除き全て生物起源である。大量の食糧を確保するには遺伝子組み換え作物での効率的な生産が目目されてきている。もちろ

ん遺伝子組み換えによる優良品種の開発はその先端技術となっている。その先端技術を駆使し農業は優良品種の大規模モノカルチャー化が進められている。しかし、効率的な少数精鋭による優良品種の開発・普及は、明らかに遺伝子や種レベルでの多様性を減少させている。

●生物多様性に内包される2つの価値観

生物多様性の価値観は、生物の価値と多様性の価値の総合的価値観であって、両者はしばしば相反する。生物の価値の多くは量的価値観であり、これは経済原理とも整合する。しかし多様性の価値は、将来の可能性や安定性の価値観であり、これは即物的な経済原理とは整合しない。

多様性は、「雑」の概念と一致する。これは雑用、雑務、雑多、雑草などに示されるように多くはマイナスの価値観になる。しかし、最近、雑誌や雑穀、雑木林など、当初はやはりマイナスの価値観だったものが最近プラスの価値観として変化し、とらえられているものも出てきた。生物多様性の価値観はプラスとマイナスがコインの裏表であり、両方の価値認識が必要であり、社会的にも多様性の価値観が大きくなりつつあるのは確かである。

●要素としての生物多様性と機能としての生態系

「生物多様性の生態系レベル」という言い方がある。私は、未だこの言葉に違和感があり、「群落・群集レベル」と表現すべきと考えている。生態系とはそもそもさまざまな生物と環境（立地条件）とがかかわり合い、生み出される「機能」である。したがってこれは目に見えるものではないばかりか、明確な単位性や境界認識は難しい。強いて言えば地球全体がひとつの生態系と言える。よく見かける「自然生態系」といった言葉もほとんど意味不明である。

生物多様性は、機能としての生態系をつくり出す「要素」として理解される。多くの部品によって性能（機能）の高い機械がつけられるように、豊かな生物多様性は、安定性また可能性を備えた健全で持続可能な生態系が形成される。性能の優れた機械も

いずれ部品が壊れて動かなくなくなるし、その時、部品のストックがなければ修理はできない壊れたままである。

●人と自然の関係

COP10 で日本が提案する将来の長期目標に「人と自然の共生」が大きく掲げられている。私は以前からこのフレーズにもなじめなかった。最近、このフレーズによって人と自然の関係を認識違いしている人がいるのに気づかされた。

「共生」という言葉の使用に対し、生物学的面で異論を唱える人もいたが、自然をあたかも人とは別格の生命体と受け取られることもあるようだ。漫画的には「人と自然が仲良く握手している」そんなイメージができていてのではないだろうか。人は自然の一員であり、そのなかでしか生きていけない存在である。ちなみに共生を英語では harmony としてい

る。共生と harmony は一致する概念とは思えないのだが。

●伝えなければならないことがある

私は、自然誌および生態学、そして自然保護思想の師である沼田眞先生から、主体-環境論や景相生態学を学んだ。それは、豊かな生物多様性と健全な生態系を守り伝える持続可能な社会への科学であるとともに、自然と調和して生きる人々の暮らしと文化の哲学でもあった。

資源・エネルギーをこれほどまでに外部依存していながら耕作放棄地が年々増え、里山里海を破壊・汚染している日本、世界的には異様に映るこの現状をなんとか打破し、その豊かな自然と生物多様性の恵みを子どもたちの未来に守り伝えることができるか、今、私たちに大きなパラダイムシフトが求められている。

団体会員紹介

NPO法人U-PROJECT

NPO法人U-PROJECTは「あなたと共に歩むプロジェクト」として、2006年に浦安市において発足した環境ボランティアチームです。

「夢の国パーク」で有名な浦安市でも街中にはポイ捨てゴミがあとを絶たず、その結果環境汚染だけでなく、治安の悪化も招き次第に子どもたちが安心して遊べる街でなくなってきていました。

そんな実情を見て、「まずは自分たちにできることから始めよう」を合言葉に、「同じ日・同じ時間・同じ思いで、みんな楽しくゴミ拾いしよう!」と、浦安市民全員参加を目指した「浦安市まるごとゴミ拾い」を、同年からスタートしました。以来毎月第1日曜日の朝に浦安市内のゴミ拾いを継続して実施しています。現在ではこの輪が広がり市川市、八千代市、佐倉市、館山市でも毎月第1日曜日に定期清掃が行われています。いつかはこの活動を日本全土に広げ、「ニッポンまるごとゴミ拾い」を実現させたいという思いから、このムーブメントの総称を「まるごみ」と名付け、2008年 11月には23市町村で一斉ゴミ拾いを行い、約1万人でおよそ50トンのゴミを拾い集めました。

翌年も9月に開催し6,000人を動員、そして今年は「国体までに県内からもゴミをなくしてキレイな街で他県の方をお迎えしよう」をスローガンに、国体開幕1週間前の9月18日に千葉県

内54市町村での一斉ゴミ拾いを目指し、現在急ピッチで準備を進めています。

また、今年から実行委員長には千葉県環境大使の野口 健氏に就任していただき、千葉県から世界へと発信していきます。子どもたちの未来のために、みんなで立ち上がりましょう！（同ムーブメントの詳細は、ネットで「まるごみ」<http://up16.jp>で検索）



連絡先：〒279-0043

千葉県浦安市富士見3-1-18

NPO法人 U-PROJECT

FAX：050-3488-1886

E-mail：info@up16.jp

運営委員会報告

6月運営委員会

日時：22年6月14日(月)
報告 ・「だより」73号印刷・発行(6月2日)
・環境月間各地でフェア開催

協議事項

- 【広報部】
- ・だより74号について
- ・ホームページについて

7月運営委員会

日時：22年7月23日(月)
報告 ・ちばし手づくり環境博(6月5日～11日)
・千葉市エコ体験スクールチラシ印刷
(7月2・4日)6日発送
・だより74号につい

協議事項

- 【広報部】
- ・だより74号について
- 【事業部】
- ・ちばしエコ体験スクール(8月5日)
- ・エコウォーキングマップ
- ・8月エコサロンについて(8月31日)
- ・エコメッセ in ちば出展内容について
- 【事務局】
- ・ELCoの会 8月23日(月)



第44回環境パートナーシップエコサロン

テーマ：「千葉県の海岸漂着物の実際と対策その他について」

日時：平成22年8月31日(火) 18:30～

会場：千葉市民活動サポートセンター会議室

話題提供者：喜多島秀行氏 千葉県環境生活部 資源循環企画室

内容：今年から千葉県では美しく豊かな海岸の環境保全のための地域計画を作成します。その背景や課題などについて、お話をうかがいます。

参加費：500円(資料代)

申し込み：あらかじめご連絡ください。環パちば会員はどなたでも参加できます。

E-mail: YFA03131@nifty.com 桑波田

◆ 広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：<http://kanpachiba.com> E-mail：info@kanpachiba.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団
環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		

